

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970200174
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	山梨ケアセンター そよ風
所在地	〒 405-0018 山梨県山梨市上神内川15-5 電話番号 0553-21-8071

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】平成20年12月1日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	14人	常勤	9人 非常勤 5人 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	69,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(200,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1300 円			

(4) 利用者の概要 平成20年12月1日 現在

利用者人数	14 名	男性	4 名	女性	10 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山梨厚生病院、秋元医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月22日

JR山梨市駅から徒歩で数分の交通の便がよいところにあり、デイサービス、ショートステイが併設されている。1階と2階の2ユニットあり、相互に連携しながらサービスが提供されている。看護師資格を有する管理者のもとで、きめ細かな健康管理がされるとともに、サービスに対する厳しい自己評価に基づき課題を見出し、課題達成に向けて熱心に取り組まれている。職員は利用者一人ひとりを大事にし、毎日を過ごしやすいうように手助けすることに心がけており、利用者の表情も明るく、穏やかに過ごせるように支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価で課題とされた利用者の呼名のしかたについて、職員と話し合い、改善した。前回の外部評価調査後、まもなく管理者が離職したため、十分な取り組みができなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者がリーダーと相談しながらまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) サービスの実施状況の報告、予定の紹介、入退居状況報告、利用者の状況報告、市からの情報提供などが行われている。外部評価結果の報告ができなかったこともあり、課題を取り上げた話し合いはあまりされていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には面会時などに、遠慮なく意見を言うよう話している。また、玄関に意見箱を設置し、すぐに記入できるように、用紙や筆記用具を添えてある。ノート式の面会者記録は、全入居者について一覧できるため、プライバシーの確保上、気になるとの意見があり、個別のカード式に変更するなど改善に役立てた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元の小学生がクリスマスの飾り物を届けてくれたりしているが、地域の人々との日常的な交流はあまりない。地域の行事や、活動にできるだけ参加するなどして、地域との交流をしていきたいと考えている。

2. 調査報告書

事業所名：山梨ケアセンター そよ風

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が実施する介護保険事業の理念を掲げているが、グループホーム独自の理念としては明示されていない。	○	地域住民との交流のもとで、家庭的雰囲気の中で、その人らしく暮らすことを支えるサービスの提供を、わかりやすく明示してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者一人ひとりを大事にし、過ごしやすいうように手助けすることを、朝礼やフロア会議で確認し合っているが、職員の入れ替わりも多く、徹底しない面がある。	○	わかりやすい表現で明示された理念を、全職員が共有するように取組まれることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の「いきいきサロン」などに職員が出席することはあるが、利用者が地域の行事や活動に参加することはない。	○	職員の支援を得ながらも、利用者が自治会の行事や活動に参加し、地域の一員としてできることを行い、地域の人々と交流することができるように、努めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価とも、主に管理者とリーダーが取り組み、全職員で取り組む態勢にはなっていない。	○	自己評価の実施、外部評価結果の活用など、職員の学習機会としても有効と考えられるので、全職員での取り組みを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施及び予定、入退居状況、利用者の状況などの報告、市からの情報提供などが行われている。管理者の交代などの事情により外部評価結果の報告や、課題についての話し合いはあまりされていない。	○	外部評価結果の報告をきっかけに、課題について話し合えるようになり、意見をいただき支援協力を得られることも多いと思われるので、運営推進会議の機能を積極的に活用されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の事業の「認知症よろず相談員」を引き受けているが、他には市担当者との行き来はあまりない。	○	毎月発行する「ホームだより」を持参するなど、市担当者と接する機会をつくり、グループホームに対する理解を深めて、必要な支援協力を得やすい関係づくりに努めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに、本人の最新の写真、暮らしぶりや健康状態を「今月のお便り」として一枚にまとめて毎月家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設置しており、その場で書くことができるように、用紙や筆記用具を添えてある。以前は、ノートに面会者を記載していたが、プライバシー確保上、気になるとの家族からの意見により面会カードを箱に投入する方法に変更した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代時には、新任の1か月間くらいは慣れた職員と複数で対応するようにして、利用者が徐々に新しい職員に馴染めるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームのフロア会議において行う、学習会や併設事業所との合同研修に参加しており、認知症、食中毒、感染症などの研修を行った。外部研修への参加は、受講人数が限定されることや、職員体制にゆとりがないことから、思うように参加できない。	○	職員の入れ替えも多いので、研修が特に重要になることから、様々な研修機会を活用し、職員の育成に努められることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会など、交流の機会はない。	○	同業者との交流は、近くのグループホームを手始めに、相互に訪問・見学しあったり情報交換をすることにより、サービスの向上に取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後、間もない利用者には、本人の希望により家族と相談しながら、外出や外泊を実施して、ホームになれるように支援している。体験入居等入居準備のための手だては行っていない。	○	入居までの準備として、体験入居やグループホーム見学などを行い職員や他の利用者、ホームの雰囲気徐々に馴染めるような工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、世話をかけたことに対する感謝の気持ちを表現したり、職員に対して思いやりの言葉をかけてもらえて、職員も豊かな心持ちにさせてもらえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望することを選択する機会をつくったり、そばに寄り添って話を聞くように努めているが、全職員に徹底していない。	○	一人ひとりの思いや希望等を、どのようにして把握するかについて勉強会を行い、全職員が的確に把握できるようにしたいと考えており、その実現を期待する。また、気づき・つぶやきメモの活用など工夫してみてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント情報を元に、利用者をよく知る担当職員と相談しながら計画原案を考え、家族とも話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	すべての利用者について3か月に1回は、介護計画を見直している。状況により、1か月で見直すこともある。在宅への移行を希望されている利用者、心身の変化が見られたことにより、介護計画の見直しがされた事例もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅願望の利用者を家まで送り、しばらく一緒に過ごしてホームに戻ってくる、家族が受診に同行できない場合の受診の付き添いをするなど、利用者や家族の状況に合わせて、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者や家族の希望により決めている。協力医療機関のかかりつけ医が、2週間に1回往診され、適切な医療を受けられるようになっている。医師との連携や、近隣の病院とも関係が築かれており、適切な医療を受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方針について、重度の利用者については話し合いがされているが、他の殆どの利用者については終末期の方針を話し合っていない。	○	ホームにおいて終末期の看取りを行うか否かに拘わらず、家族にとっても大きな関心事であることから、できるだけ早期から話し合い、その方針を共有しておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉づかいや、呼名をしないように気を付けているが、徹底しない面もある。また、会議などでの個人情報の扱いについても検討の余地がある。	○	フロア会議における学習会などで、繰り返し話し合っていきたいと考えており、実現を期待したい。会議等における個人情報の扱いについても検討してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重して、時間をずらすなどにより対応しているが、その日どのように過ごしたいのかなど、本人の希望を十分には把握できていない。	○	一人ひとりがどのように過ごしたいのか希望を把握することに努めて、それに沿った支援ができるようにしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまでの過程の殆どを、職員が行っており、利用者は、手持ちぶさたの様子に見受けられる。食事中、職員は食事介助や見守りに専念しており、同じ食事を一緒に食べながら会話する場面は見られない。	○	日々の生活の中で、食事は重要な位置を占めており、力が発揮できる場であり、一緒に作業する利用者や職員との関係づくりの機会ともなる大事なイベント(行事)として、十分活かすような取り組みが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回としているが、希望する利用者には、毎日入浴できるようにしたいと検討中である。入浴をためらう利用者には、無理強いせず、時をずらして再度すすめるなど工夫している。	○	希望する利用者が、毎日入浴できるように検討しているところであり、実現を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、はさみづかいなど、得意な力を活かして、利用者ができることを実施している。布で作ったつるし柿が居間に飾られており、季節を感じさせている。食後の談笑中に「何かやることがあればよいのに」と、所在なさそうにしている利用者もいた。	○	利用者の得意なこと、やりたいことなどを引き出すようにして、利用者の力や経験をいかした活動をさらに充実させるように期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は毎日、短時間でも戸外に出るようにしている。交通量の多い表通りを避けて、裏道を二三人ずつで散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面しており、過去に無断外出した利用者がいたこともあり、安全のため終日施錠している。鍵をかけなくてすむケアの態勢が、まだできていない。	○	法人、センター長、職員、家族など関係者との話し合いや設備面の準備、職員態勢などを検討され、鍵をかけないケアの実現がされるように期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行っていないが、1月に実施する計画である。防災マニュアルはあるが、職員に徹底されていない。備蓄も特にしていない。	○	予定どおりに防災訓練が実施され、災害時に備えられるように期待する。また、備蓄や地域の人々の協力態勢づくりなどについての取り組みも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分確保ができるように、軟らかくしたり、とろみをつけて食べやすい食形態にし、汁物などで水分を多くするなど工夫している。毎日の食事・水分摂取の状態は、利用者ごとに記録し、毎月の様子が一覧できるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく温度・湿度も適切に調整されており、不快な音や臭いもない。また、つるし柿やクリスマスグッズなど季節感のある装飾がされている。浴室・トイレも手すりが設置され、清潔で使いやすくなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロッカーや引き出しなど収納が造りつけになっており、ベッドと寝具の他には家族の写真やアルバムがおいてあるが、利用者の使い慣れた家具や物品の持ち込みはあまりなく、少し寂しい感じがする。	○	居室が安心できる場となり、利用者らしく暮らし続けられるように、使い慣れた家具や好みの物品を持ち込むことについて、本人や家族と話し合いたいと考えているところであり、その実現を期待したい。